

学校の在り方地区検討委員会（三八地区）

【第3回】概要

日時：令和8年4月24日（金）

13：30～16：00

場所：八戸プラザホテル 別館芙蓉東

<出席者>

沼澤委員、山本委員、原委員、澤田委員、尾形委員、高橋委員
濱浦委員、今井委員、内沢委員、三槇委員、佐々木原委員、一戸委員
米内山委員（進行役）

代理

佐藤氏（齋藤委員代理）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

3 意見交換

（1）単位制や少人数学級編制、学科、学校配置の方向性

- 単位制や少人数学級編制、普通教育を主とする学科の改編について賛同する。
- 中学校卒業予定者数が減少していく中において、規模の適正化は加速度的に進めていく必要がある。
- 新普通科の設置については、中学生の選択肢が増えるため、賛同する。
- 同じ高校に入学する生徒間の学力差が広がっている。学級減を検討するに当たっては、学力差の是正という観点もあるのではないか。

（2）全日制課程の学校規模・配置

- 後期実施計画期間の中学校卒業予定者数等の推移を踏まえると、前期実施計画期間における統合についても検討するべきである。
- 学級減での対応については、多くの方が納得すると考える。
- 少子化が加速化することを踏まえると、将来を見据え、早い時期から統合等を進めていく必要がある。

- 学級減で対応するとのことであるが、後期実施計画期間において統廃合は避けることができないため、後期実施計画策定前の早い段階から検討を進めていくべきである。
- 2学級減については、学級数が多い高校や職業学科のうち2学級募集している高校の減が考えられる。
- 学級減については、倍率等の中学生のニーズを考慮し、中学生の進路選択肢を狭めないようにする必要がある。
- 統合を行うのであれば、早めに統合に関する情報を周知するべきである。
- 学級減で対応するのであれば、学級減を実施しても大きな影響がない高校を対象とするべきである。一方で、統合をすることで、学校数は減少するが、学級規模は大きくなり、高校教育の質を確保できるといった観点もあることから、統合という選択肢は残しておくべきである。
- 新普通科については、学習内容や身に付けたい力などを中学生やその保護者が分かりやすいものにする必要がある。また、設置するに当たっては、指導する教員の資質向上を図る必要がある。さらに、新普通科設置に向けた周知は早めに行うべきであり、卒業後の想定される進路等も示す必要がある。
- 今後10年間を見据え、統合も含めてより良い高校づくりをする必要があるという意見は建設的である。しかし、統合を実施するには、さらに議論が必要となってくるが、その間も中学校卒業予定者数の減少に対応する必要がある。

そのため、前期実施計画期間は学級減を行い、前期実施計画期間中に統合についてしっかり議論することが、当地区ではよいのではないかと。

学級減の対象については、これまで学級数の多い高校や学級減を実施しても大きな影響がない高校、同一の職業学科で2学級募集の学科という意見が出されていた。このことを踏まえると、1学科1学級の職業学科は維持し、学科の消滅は避けたほうがよい。

また、普通高校は倍率が高いため、中学生のニーズを踏まえると、普通高校から2学級減することは中学生への影響が大きい。

さらに、規模の大きい高校は、八戸高校、八戸北高校、八戸東高校、八戸西高校があるが、八戸東高校、八戸北高校は、現行の2期実施計画において学級減の対象となっており、さらに学級減を実施することは、学校運営に影響を与える可能性がある。

八戸高校については他の高校にはない人財育成の体制が構築されているため、率先して学級減の対象とすべきではない。

これらを踏まえると、八戸西高校及び八戸商業高校の学級減で対応するという

のが委員会での意見となると考える。

- データサイエンス科については、普通科が改編されるため、普通科と専門学科を併置している八戸西高校と八戸東高校を除く八戸北高校に設置するのがよいと考える。
- 未来デザイン科については、三戸高校への設置を、データサイエンス科については、八戸北高校への設置をイメージしていた。
- 三戸高校については、現在も探究学習に力を入れている。また、未来デザイン科は、地域と一体となって教育活動を実施していく特徴があることを踏まえると、三戸高校への設置は賛同できる。この未来デザイン科の設置を皮切りに八戸市内の中学生も進学するようになるのではないかと考えている。
- 八戸西高校のスポーツ科学科、八戸東高校の表現科はそれぞれ特色ある教育活動を実施しているため、維持すべきである。

(3) 定時制課程・通信制課程の学校配置

特に意見なし

(4) その他

- 多様な学びを提供するためには、教員確保は非常に重要である。
- 高校生は、大学進学後、地元ではなく都会で就職する。将来を見据え、高校で生徒と地域との関係性を密にしたり、地元に戻ってくるような学びを提供する必要がある。
- TEAM県立を打ち出しているのであれば、県においても生徒の通学環境の整備のために、各校までのバスの運行等を考えていく必要がある。

4 閉会